

※ ページ数や行数は初版第 18 刷のものです。それ以前の刷とは、最大で 1 ページずれていることがあります。

---

ミスプリントなどを修正するために必要な、加筆・修正・変更点

なし。

間違っているわけではないが、わかりやすく改良するための加筆・修正・変更点

- p.276, 7.3 節の最後の段落

なお、相対論的場の量子論の場合には、(中略)正しい理論のエッセンスをなんらかの意味で引き出した理論にはなっていると考えられている。

↓

なお、相対論的場の量子論の場合には、物理量の期待値などを単純に計算しようとすると、いたるところに発散が生じてしまう。そこで、まず適当なカットオフにより有限化した理論を考え、その相互作用定数などもカットオフの関数であるとする。その関数形をうまく選ぶことにより、カットオフを無限大にする極限がとれるという、くりこみ (renormalization) と呼ばれる処方箋が開発された。これにより意味のある予言ができるようになるとともに、相対論的場の量子論の厳密な定義ができるのではないかと期待されている。

以上